

# かたつむい通信



令和5年度 第1号2023年4月発行



目黒川 撮影：井澤清明さん

## ■地域の環境保全活動を助成します

募集中

区内在住・在勤・在学のグループの環境保全をテーマにした取り組み  
・環境保全をテーマとした講演会・学習会の開催  
・自然観察会等の企画・運営 など

助成金額 助成対象経費の8割(年度限度額10万円)

申請期間 令和5年4月3日(月)～28日(金)

## ■SDGs環境事業受託団体募集

SDGsにかかる環境保全に関する事業計画を募集

令和5年5月1日～6年2月29日の間に実施する事業が対象

事業委託費上限 50,000円

申込・問合せ：エコライフめぐろ推進協会 ☎03-3715-7835

## 「水の国日本」に住む私たちの暮らし ①

### 世界でも珍しいお天気の本国、ニッポン

私たちは世界でも非常に珍しいお天気の本国に住んでいる、と言ったら、皆さんは驚かれるでしょうか。日本は極地でも熱帯でも砂漠でもない、穏やかな温帯の国でしょ？って。実は、日本は、温帯の国としてはとって雨(降水量)が多いんです。例えば、東京の平均年間降水量は1,700ミリくらい。でも、ロンドンやパリなどは600ミリ前後、北京で500ミリ、ロサンゼルスでは400ミリを切ります。つまり主な温帯の都市の3倍くらいは降っています。日本海側の積雪量も、世界的に見てダントツです。住んでいると実感はないですが、私たちは、世界で類を見ない降水の多い国に生きているんです。

### 日本に降水量が多い3つの理由

これには、3つの原因があります。一つは、日本が火山国で「列島」の形をしていて、その両側に暖かい海流(暖流)が流れていること。そのために夏でも冬でも季節風にはたっぷり水蒸気が含まれており、日本にやってくると急峻な山にぶつかって多雨や豪雪になるのです。

もう一つは、日本上空を流れる偏西風の風上に、ヒマラヤ山塊があること。そのために日本上空では、ヒマラヤの北側を回って来る冷たい空気と、南を回って来る暖かい空気がぶつかって、前線を形成しやすいということがあります。典型的なのは梅雨前線や秋雨前線で、その時期には多くの雨を降らせませす。

最後の一つは台風や夏の豪雨です。日本は太平洋の北西部にあって、台風の通り道であると同時に、太平洋高気圧の縁を

大間 哲(おおま てつ) 気象予報士・防災士

回って、暖かで大量の水蒸気を含んだ空気が初夏から夏にかけてやってきます。それが梅雨末期の線状降水帯による豪雨や都市型集中豪雨(いわゆるゲリラ豪雨)の原因ともなっています。

このように日本の気候は複雑で降雨予想も難しいため、日本は世界トップクラスの気象予報技術を誇ります。EU・アメリカ・中国・ロシア等の大国を除けば、独自に気象衛星を持っているのは日本だけです。気象予報の網目も細かくて、ピンポイントの予報にも対応しています。だから、私たちは安心して暮らせるのです。

### 日本の気候だからこそ発達した世界一の温泉文化

日本に雨が多いことは恵みでもあります。緑豊かな森もそうですし、どこでもきれいな水が飲めるのもそのおかげです。また、火山と地下水が豊富なおかげで日本には温泉がたくさんあります。日本の温泉地の数は約3千。全世界の約4分の1(※)の温泉は日本にある、世界一の温泉国です(※ 国によって数え方が違います)。日本は冬が寒いのに多湿だからこそ、お風呂に浸かる文化が発達したわけで、温泉が多く掘られたのでしょう。

私たちは、日本の気候に思いをはせつつ、四季折々の美しい季節の変化と温泉を楽しみたいものです。

■プロフィール 法政大学 キャリアデザイン学部講師。「誰一人取り残されない社会」を目指してIT業からキャリアカウンセラーに転職。その傍ら、気象予報士として、環境教育や子どもたちのキャンプ活動や、気象・防災のセミナーなども開催。



## 令和5年度(2023年度)の取り組みに向けて

第27回気候変動枠組条約締約国会議(COP27)が、エジプトのシャルムエルシェイクで開かれました。気温上昇1.5度以下に抑える目標は維持されましたが、産油国、経済成長を重視する国などの主張やロシアのウクライナ侵攻をきっかけとするエネルギー危機で欧州などの先進国も強い姿勢を打ち出すことができず、温室効果ガス削減強化は進みませんでした。一方で、地球温暖化で「損失と被害」を受けた途上国を支援する基金の創設は合意されました。ただ、かつて「環境先進国」と言われた我が国の存在感は薄い印象でした。今年開かれるG7サミットに向けての課題であると思います。

昨年4月、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行されました。コンビニなどで提供されるカトラリーなどは次第に木製などに置き換わっているようです。製造者、使用者などの各主体において具体的取り組みをどのように進めていくのか注視したいと思います。最近の動きでは、プラスチックごみ汚染の対策として、排出や廃棄を規制する国際条約策定が始動したとの報道がありました。2024年内に法的拘束力のある汚染対策条約を作る方針で合意しています。ただ、規制強化では一致していますが、欧州などと産油国に立場の違いがあり、途上国支援でも隔たりがあるようです。

地球温暖化対策や気候変動、プラスチック問題などはグローバルに協調と連携協力をしていかななくてはなりません。国を超えた取り組みが必要です。我が国も主導的立場で役割を果たしていくことが求められます。誰もが等しく安全で健康な未来を享受できる持続可能社会の実現に向けては多様性を尊重しつつも、私たち一人ひとりが地域の環境問題、地球環境に対する責任を負って日々の生活を送っていく必要があります。

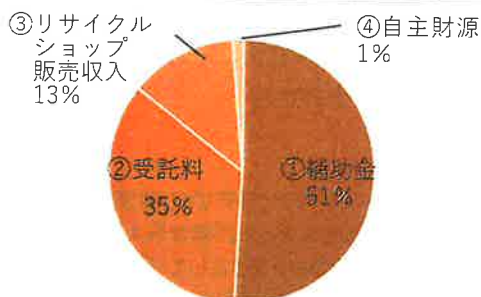
このような認識を踏まえ、令和5年度(2023年度)エコライフめぐろ推進協会は、区民等が身近なところから持続可能な社会の実現に向けた取り組みを楽しく、気軽に継続して行えるよう情報発信、普及啓発を行います。ウェブサイト、広報紙など多様な媒体も活用し、環境にやさしい行動を選択する暮らし方、日常から実践できる環境配慮行動などの提案、情報発信をいたします。また、区民等の環境保全活動団体の活動に対しては、必要な支援を行って参ります。

目黒区エコプラザの指定管理者として、設置目的を効果的、効率的に達成するため、区民や環境保全活動団体などとの連携・協力をこれまで以上に推し進めます。区民等が環境問題について学び、環境保全活動を実践行動していく拠点として、適切な管理運営に努めて参ります。

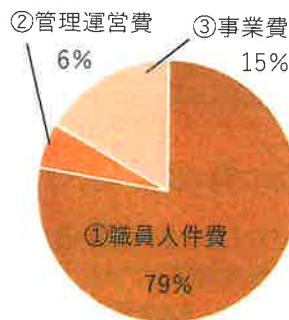
## 令和5年度収支予算の概要

理事会において、令和5年度事業計画及び予算が承認されました。

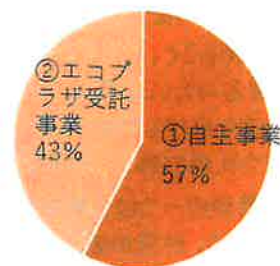
収入内訳 (財源別)	(千円)
①補助金	39,325
②受託料	27,000
③リサイクルショップ販売収入	8,763
④自主財源	1,021
収入合計	76,109



支出内訳 (費目別)	(千円)
①職員人件費	60,199
②管理運営費	4,327
③事業費	11,583
支出合計	76,109



支出内訳 (事業別)	(千円)
①自主事業費 (団体運営費)	43,157
②エコプラザ指定管理事業受託事業費	32,952
支出合計	76,109



# エコライフめぐろ推進協会の主な取り組み

## 協会自主事業計画

### めぐろスマートライフ

賢い消費、資源の有効利用、省エネなど、分かりやすく直ちに実践できる情報の発信、ライフスタイルを提案して参ります。今年度は積極的に取材に出向くとともに、動画配信や外部のウェブサイトともリンクするなど、幅広く展開いたします。また、区民等からの投稿を募るとともに、ecoライブライターにもご協力いただき身近で親しみやすい情報提供に努めます。

### 環境保全活動団体との連携と支援

区民等の日常における環境保全活動やネットワークづくりに対する支援は、エコライフめぐろ推進協会の重要な役割です。令和5年度(2023年度)は、区民等の環境保全活動団体の活動が活発、活性化するよう助成制度、協会事業の委託などによる万全の準備等をいたします。併せて、環境保全活動団体相互の情報交換、ネットワークづくりができるよう活動報告会、交流会を開催いたします。

### フードドライブ

フードドライブは、令和3年度から窓口を事務局に常設していますが、引き続き地域のイベントなどへも出向き実施する予定です。今後とも食品ロス削減に向け行政、関係団体等と連携を図っていくとともに情報収集に努め、食品ロス問題について啓発等に取り組んで参ります。

### エコまつりめぐろ2023の開催

昨年は、新型コロナウイルス感染症対策のため入場数など多くの制約のもと3年ぶりに開催し、おおむね好評のうちに終えることができました。今年度も新型コロナウイルス感染症の終息は不透明なところですが、十分な対策のもと昨年以上の賑わいを目指して実施いたします。

### 持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGsは、私たちを取り巻く社会活動、日常生活全てに関わるものです。協会事業も然りです。協会の事業実施にあたっては、SDGsを意識した運営を行って参ります。国等の行政機関、関係団体の動きにも注視し、区民に身近な事柄について調査・研究、情報収集していくとともに啓発に取り組んで参ります。

## 目黒区エコプラザ事業計画

### エコプラザ講座・出前講座の開催

子育て世代や子どもたちなど、多様な年齢層を対象に講座を開催します。日々変化していく環境問題について、子どもや保護者などが環境負荷低減に取り組む糸口を見出し、実践手法を学ぶ講座を実施します。小学校などでは、環境問題を知り・学ぶ機会となり、身近な環境問題に向き合っていくきっかけの場となるよう講座内容を工夫します。また、コロナ禍を踏まえ、インターネットを活用したオンラインによる講座配信も適宜実施して参ります。

### 環境推進員養成講座の実施

環境保全活動の輪を広げていくことを見据え、地域で自主的・自発的に活動できる人材の育成を目的に実施しています。講座修了生らは相互の交流などを通して環境保全活動グループを立ち上げています。活動グループでは講座で学んだことなどを参考にテーマを設定し、様々な環境保全活動を実践しています。この講座実施にあたり環境保全活動の実践機会として、過年度修了生が講座の企画・運営を担っています。また、環境推進員向けに環境活動等の情報を発信している「エコサポーター通信」の編集へも参画しています。環境推進員養成講座修了生が「環境推進員」の認定に向けて「エコサポーター」として環境ボランティア活動へ参加をいただけるよう、引き続き協会事業を始め様々な活動機会、情報提供を行って参ります。

### リサイクルショップの運営

リサイクルショップは、「物」を繰り返し使う暮らし（リユース）、不用品やごみを減らす暮らし（リデュース）を啓発し広めるため、区民などからご寄付いただいた家庭で不用になった衣類、雑貨等の物品を販売しています。リサイクルショップの販売収入は、様々な協会事業の財源として活用しています。リサイクルショップ運営に当たっては、区民、エコプラザ来訪者等に対して、事業目的の周知と啓発に努めます。また、時季に合わせた販売企画やポップ、ショップ内のレイアウト、寄付品の受入れ方法などの改善を進め、利用者が利用しやすく明るいショップとなるよう取り組んで参ります。



## めぐろエコサミットin2022「エネルギー最前線」

### ～ SDGs に取り組む交通業界 ～ 後援の報告

令和4年12月13日に区内の環境団体「めぐろ環境マネジメントシステム研究会」によるゼロカーボンシティへ向けて、区内の交通に関わる企業を招き「エネルギー最前線」をテーマにした環境講演会が開催されました。地球温暖化の現状と影響、対策のロードマップの紹介、企業の取り組み、目黒区の取り組みなど、官民一体となりエネルギー問題と向き合い事業活動をどう進めているのか、その活動や今後の展望について紹介され、当協会は後援しました。



■登壇者左から、小沼信夫氏（環境省）／富田純正氏（日進レタカー代表取締役社長）／卯月勝彦氏（東急バス株式会社）／五島雄一郎氏（東急電鉄株式会社）ほか

## 会員向けワークショップ



1月25日、協会会員の方にご参加いただき、ボランティア講習「資源とごみの分け分けゲーム」の実践と、プラスチック減量アクションとして、繰り返し使うことができるみつろうラップ作りを行いました。

## エコライフ交流会2023



2月4日、地域や活動団体の交流を目的として開催。「もめんむすび」の杉村悦子さん、ecoライフライターの井澤清明さんに、活動の様子をお話いただきました。

## オンライン出前授業



2月14日、「食品ロスを知り、身近な食品ロスの現状について興味を持とう！」という学びの中で、目黒区不動小学校3年生40人に「フードドライブ」についてオンライン出前授業を実施しました。

## ecoライフライター研修会



3月1日、講師に目黒区みどり土木政策課職員、「花とみどりの学習館」解説員を招き、生物多様性を知りめぐろスマートライフの記事作成のヒントをつかむための研修会を行いました。

## 協会会員コラム

### 賢くプラスチック製品と付き合う

文：協会会員 古賀雅子さん

久しぶりに味噌づくりをしようとレシピを検索してみたら、密閉容器やジッパー付きのビニール袋を使って仕込む方法が多数紹介されていました。なるほどこれなら手軽に作れてハードルが下がりチャレンジする人も増えるだろうな、と感心しました。柔軟性があり安価で手軽に利用できるプラスチック製品は災害用品としても重宝するため、我が家でも欠かせないものになっています。

私が清掃工場や焼却場から出る有害物質など「ごみ」に関心を向けるようになったその当時から、大量生産・大量消費の根源であるプラスチックは課題となっていました。生協や関心ある方々とともにごみ問題について学習、啓発活動を片隅で関わり、思えばすでに20年以上になります。しかし、今もまだ問題の本質は変わっていません。

100円ショップも魅力的ですが、焼却処分場にかかる費用など税金で払っている費用を加算すると、安いと思って使っていたプラスチック製品が実は高い物になるそうです。最近ではリサイクルだけでなくリユースやレンタル、シェアリングなど新たなシステムも出てきました。上手に取り入れて、なるべくプラスチック製品を使わない暮らしを日ごろから心がけるようにしています。プラスチックである必要がなければ選択せず、長く使える製品を選び、最後に廃棄

する際はルールに従い、きれいにして分別し、資源として出すことがなにより大切なことだと思います。

でも消費者ばかりが一生懸命、いくら頑張っても限界があります。昨年4月に施行された「プラスチック資源循環促進法」では、プラスチックの資源循環措置として「3R」とともに「Renewable」（再生可能な）が基本原則として挙げられています。生産段階からどう処分するかを見通した製品づくりを事業者に求め、業界を、そして国をも動かすような消費行動を広めて行くことも必要と感じています。

目黒区でも7月から製品プラスチックの資源回収が始まります。回収されたプラスチックがどう再利用されるのかも気になりますが、一歩前進と捉え、脱プラスチック生活を楽しみましょう。

